

郷土資料館ゼミナール
—地域の風土は、歴史と文化によって^{つちか}培われる—



第3回 知内学のすすめ

地球科学編

講座名

北海道南西沖地震から20年

地震の仕組みについて —活断層調査をとおして—

内容

- 地震一般の話
- 野外観察からみた活断層
- 地震周期の決め方
- 断層の年代を測ることの難しさとそれへの挑戦ほか



土層の説明をする教授

今年^{今年}は活断層が要因で発生した北海道南西沖地震から20年の年です。近年では対岸の下北半島大間町の原子力発電所建設にあたって話題になっている活断層ですが、全国を精力的に調査中の雁澤先生から最新の情報を交えたお話をして頂き、地震発生メカニズムについて学びます。

ところで時々千軒地区や函館だけの局部で発生する地震がありますが、不思議に思いませんか。

講師:雁澤好博氏
(北海道教育大学函館校教授)

活断層とは…

活断層は、「最近の時代まで活動しており、将来も活動する可能性のある断層」と定義されています。最近の時代まで活動というのは、新生代第四紀(258万年前から現在まで)に繰り返し活動し、今後また活動する可能性がある断層のことです。

1920年代にアメリカのカリフォルニア州で防災の観点からとりあげられ、日本でも「活断層」ということばがこのころから文献に現れています。 [世界大辞典・日本大百科全書]



開講日時

平成25年 **7月18日**(木)午後6時30分～

開催場所/知内町郷土資料館(ふれあい工房2階)

※「知内学のすすめ」会員以外の方は、資料代として300円必要です。

【くわしいことをお知りになりたい方は、郷土資料館へお問い合わせ下さい】

